

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です  
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	q6w ベムプロリスマブ(PMBCL)
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	再発又は難治性の原発性縦隔大細胞型B細胞リンパ腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NHL-049
登録日・更新日	2023年10月1日
削除日	
出典	KEYNOTE-170、キイトルーダ添付文書
入力者	園部 あみ

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名：一般名 (薬剤名・商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	ベムプロリスマブ(遺伝子組換え) (キイトルーダ点滴静注)	100mg	400mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他( )	30分	Day1
	生理食塩液*	100mL				

1コースの期間	42 日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能( 日) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【延期・中止基準】</p> <p>間質性肺疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Grade2の場合、Grade1以下に回復するまで休薬する。12週間を超える休薬後もGrade1以下まで回復しない場合には中止する。</li> <li>・Grade3以上又は再発性のGrade2の場合、中止する。</li> </ul> <p>大腸炎/下痢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Grade2又は3の場合、Grade1以下に回復するまで休薬する。12週間を超える休薬後もGrade1以下まで回復しない場合には中止する。</li> <li>・Grade4又は再発性のGrade3の場合、中止する。</li> </ul> <p>肝機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ASTが100～150U/L若しくはALTが150～200U/L又は総ビリルビンが1.5～3.0mg/dLに増加した場合、Grade1以下に回復するまで休薬する。12週間を超える休薬後もGrade1以下まで回復しない場合には中止する。</li> <li>・ASTが150U/L超、若しくはALTが200U/L超、又は総ビリルビンが3.0mg/dL超に増加した場合、中止する。</li> <li>・肝転移がある患者では、AST又はALTが治療開始時にGrade2で、かつベースラインから50%以上の増加が1週間以上持続する場合、中止する。</li> </ul> <p>腎機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Grade2の場合、Grade1以下に回復するまで休薬する。12週間を超える休薬後もGrade1以下まで回復しない場合には中止する。</li> <li>・Grade3以上の場合、中止する。</li> </ul> <p>内分泌障害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Grade2以上の下垂体炎、症候性の内分泌障害(甲状腺機能低下症を除く)、Grade3以上の甲状腺機能障害、Grade3以上の高血糖、1型糖尿病の場合、Grade1以下に回復するまで休薬する。12週間を超える休薬後もGrade1以下まで回復しない場合には中止を検討する。</li> </ul> <p>Infusion reaction</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Grade2の場合、投与を直ちに中止する。1時間以内に回復する場合には投与速度を50%減速して再開する。</li> <li>・Grade3以上の場合又は再発性のGrade2の場合、直ちに中止し再投与しない。</li> </ul> <p>Grade3以上の心筋炎、脳炎、ギラン・バレー症候群</p> <p>副作用の処置としての副腎皮質ホルモン剤をプレドニゾン換算で10mg/日相当量以下まで12週間以内に減量できない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12週間を超える休薬後もGrade1以下まで回復しない場合</li> <li>・上記の場合は中止する。</li> </ul> <p>上記以外にGrade4の血液毒性が発現した場合は、Grade1以下に回復するまで休薬する。</p>
前投薬	なし
その他の注意事項	<p>*日局生理食塩液又は日局5%ブドウ糖注射液の点滴バッグに注入し、最終濃度を1～10mg/mLとする。</p> <p>・インラインフィルター(0.2～5µm)を使用して投与</p> <p>【免疫チェックポイント阻害薬有害事象対応マニュアル】を参照</p>

記入者	園部 あみ
確認者	田畑 里佳子